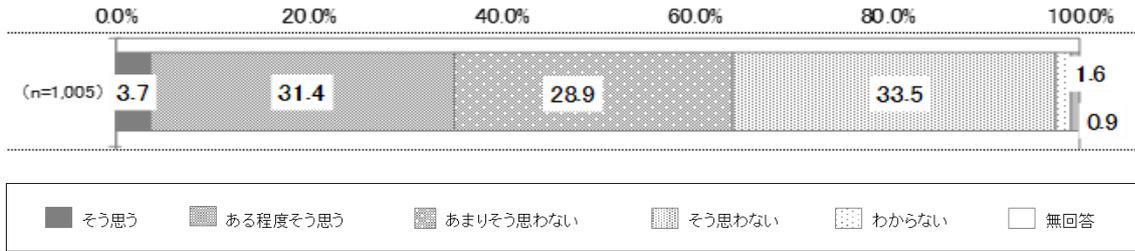


第4部 調査結果の分析

1. 性別役割分担意識について

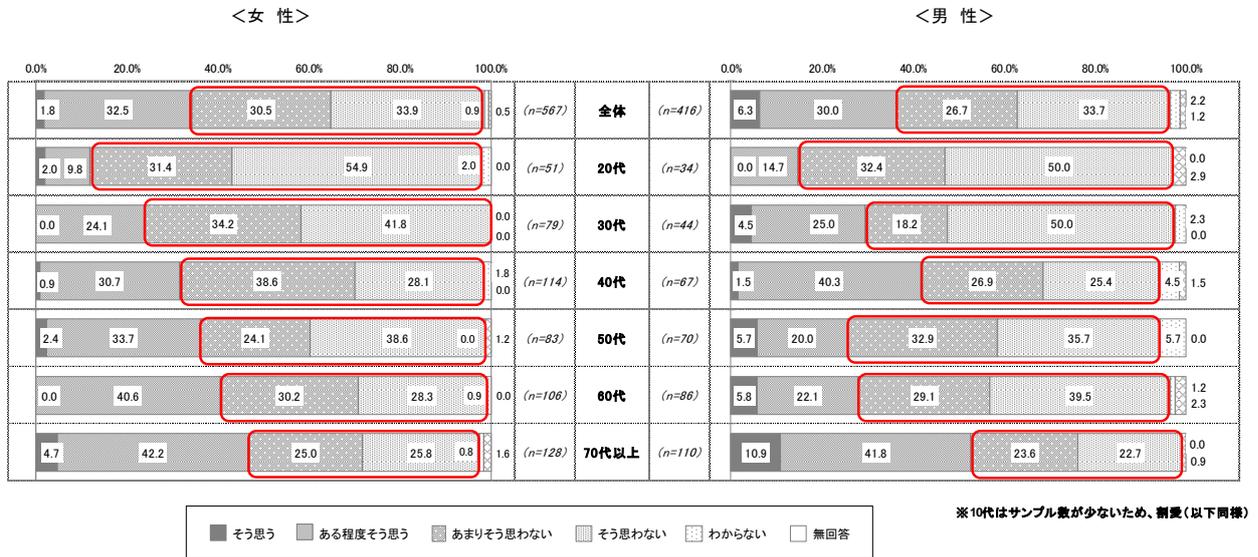
(1)「男性は仕事、女性は家庭を中心にする」という考え方(性別役割分担意識)に対する意識

図表1 問1 あなたは、「男性は仕事、女性は家庭を中心にする」という考え方についてどう思われますか。(SA)
[全体]



「反対」(「あまりそう思わない」+「そう思わない」)とする者の割合は 62.4%と過半数を超えた。「賛成」とする者の割合(「ある程度そう思う」+「そう思う」)は 35.1%であった。

図表2 問1 あなたは、「男性は仕事、女性は家庭を中心にする」という考え方についてどう思われますか。(SA)
[男女別]



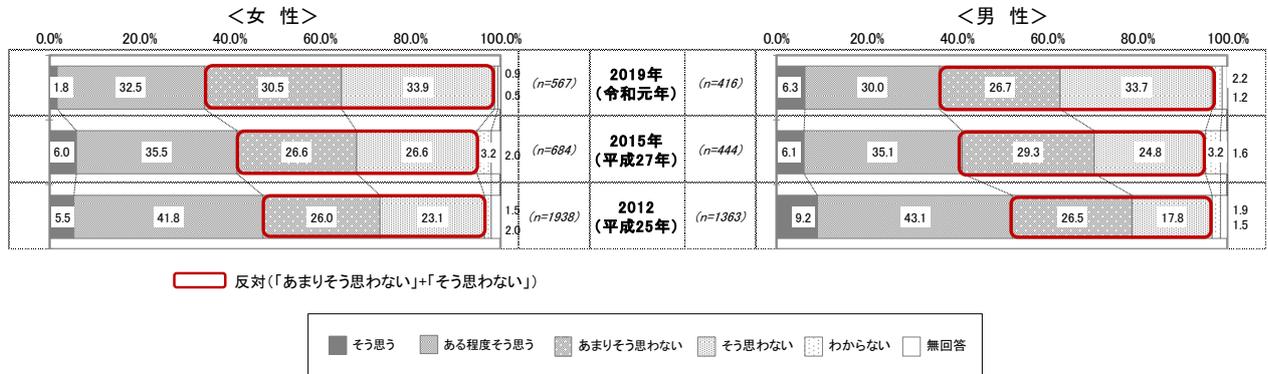
反対(「あまりそう思わない」+「そう思わない」)

性・年齢別にみると、「賛成」とする者の割合は、男性は40代で41.8%と、50代の25.7%、60代の27.9%と比べ高くなっている。女性は、年代が低いほど「反対」とする者の割合が高くなっている。

70代以上では男女ともに「賛成」とする者の割合が高く、女性で46.9%、男性で52.7%となっている。

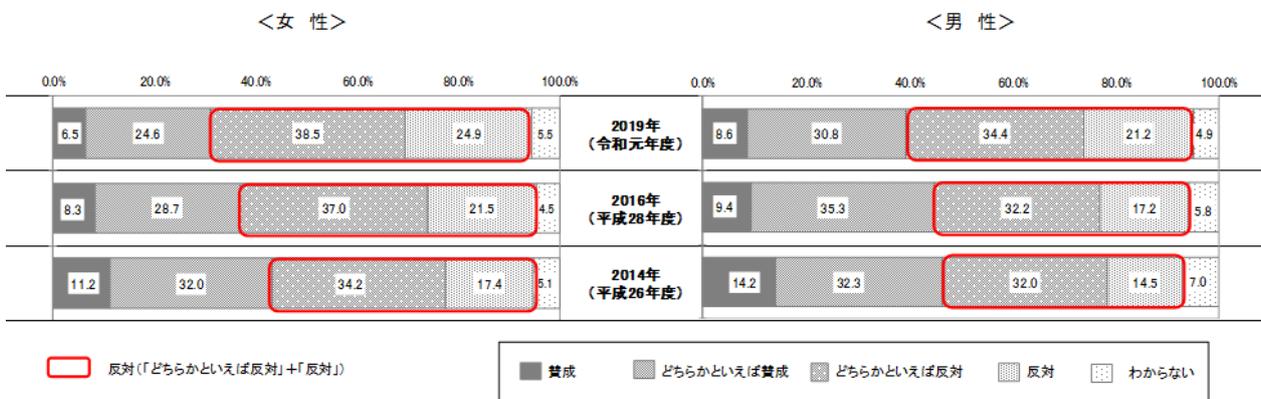
【 経年比較 】

図表3 問1 あなたは、「男性は仕事、女性は家庭を中心にする」という考え方についてどう思われますか。(SA)
[経年比較 男女別]



平成 27 年度調査、平成 25 年度調査と比較すると、「反対」とする者の割合は、長期的に増加傾向にある。男性では、平成 25 年に「反対」とする者が 44.3%だったが、平成 27 年には 54.1%、令和元年度は 60.4%と大きく増加しており、性別役割分担意識について男性の意識が変化していることがわかる。

図表4 内閣府世論調査「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に対する意識
[経年比較 男女別]



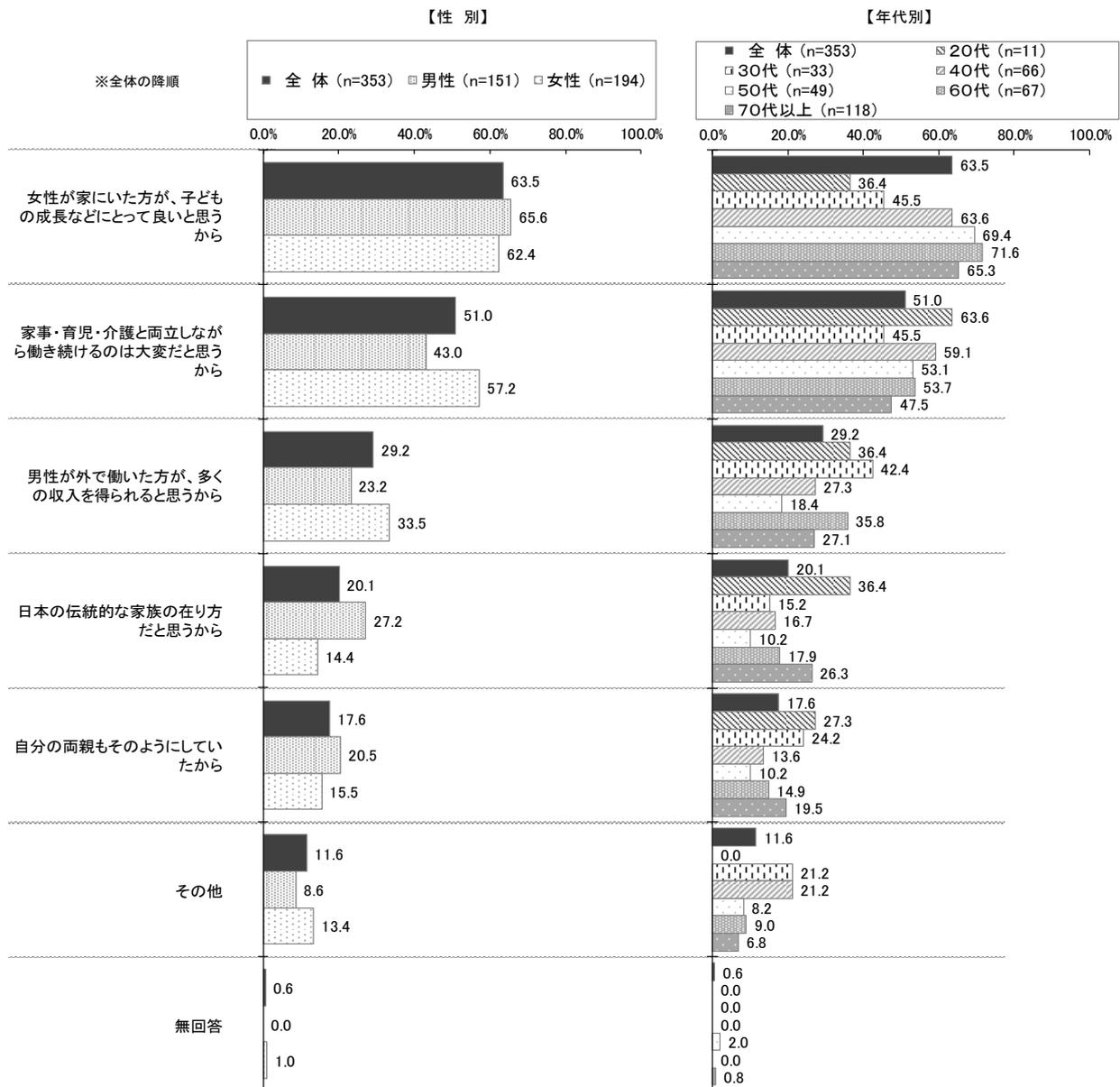
令和元年度調査では、大阪市調査の男性で「反対」とする者の割合が 60.4%と、内閣府調査の 55.5%より 4.9 ポイント高くなっている。

(2)「男性は仕事、女性は家庭を中心にすべき」という考え方に「賛成」する理由

図表5

問2 問1で「1. そう思う、2. ある程度そう思う」を選んだ方にお伺いします。それはなぜですか。(MA)

[性別 男女別]



注) 数値は「男性は仕事、女性は家庭を中心にすべき」という考え方に「そう思う」「ある程度そう思う」との回答者を100とした%

「女性が家にいた方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」とする者の割合が 63.5%と最も高く、「家事・育児・介護と両立しながら働き続けるのは大変だと思うから」が 51.0%、「男性が外で働いたほうが多くの収入を得られると思うから」が 29.2%と続いている。

「家事・育児・介護と両立しながら働き続けるのは大変だと思うから」については、男性は 43.0%、女性は 57.2%と最も男女差が大きかった。「日本の伝統的な家族の在り方だと思うから」については、全体で 20.1%が理由として選択しているが、男性は 27.2%、女性が 14.4%と男女差がみられる。「自分の両親もそのようにしていたから」はついで

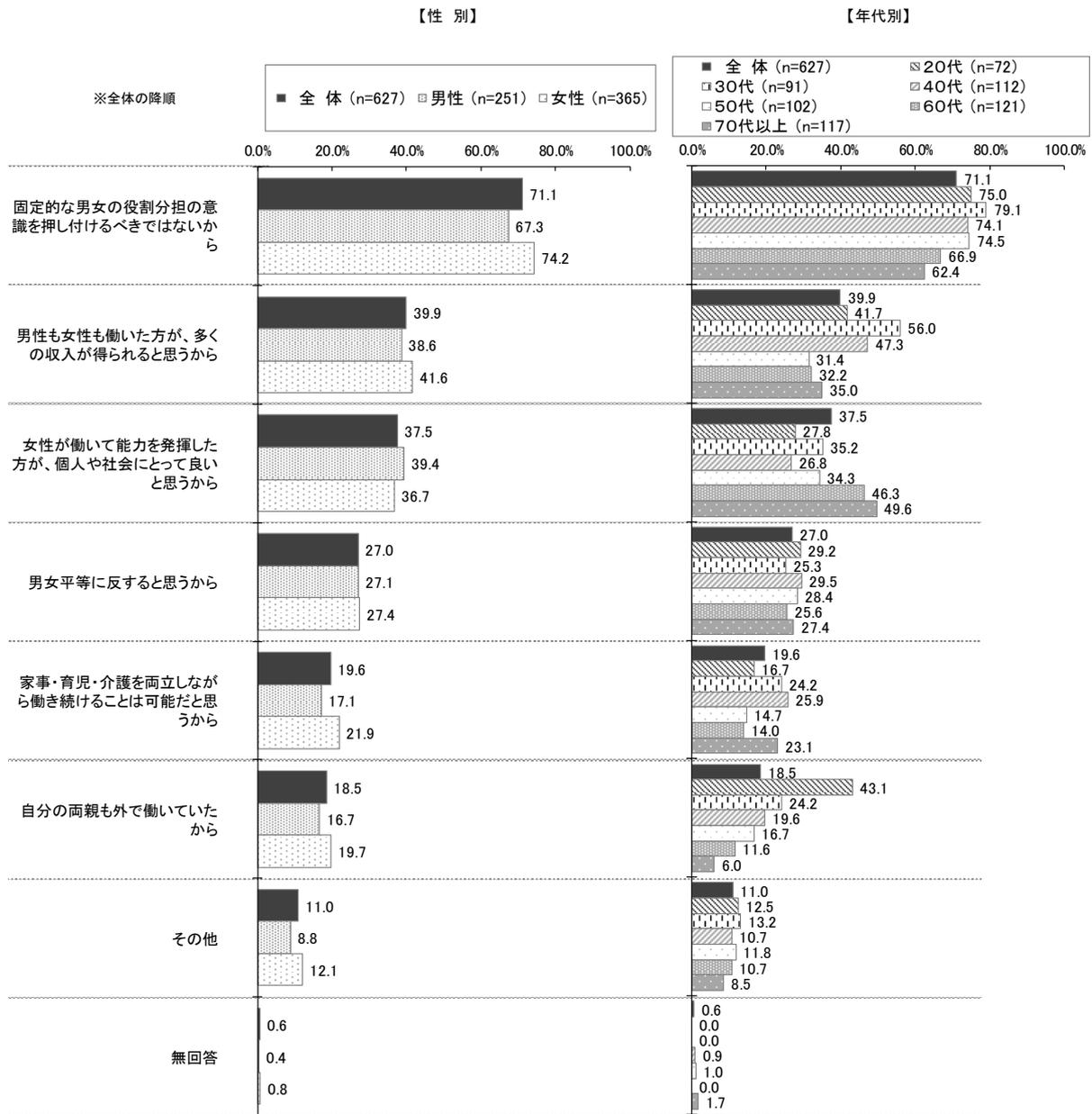
ては、全体では 17.6%だが、年代別にみると 20 代で 27.3%、30 代で 24.2%と平均を上回っており、若年層の家族形成をめぐる意識が、自らの生育状況に影響されていることが伺える。

その他は 11.6%で、「女性が外で働く為の体制が整っていないから」(30 代 女性)、「保育予算の軽減につながるのではと思うから」(40 代 女性)、「同じ仕事なのに社員とバイトの給料が違いすぎる(男と女の給料が違いすぎる)」(60 代 男性)などの意見がみられた。

(3)「男性は仕事、女性は家庭を中心にすべき」という考え方に「反対」する理由

図表6

問3 問1で「3. あまりそう思わない、4. そう思わない」を選んだ方にお伺いします。それはなぜですか。(MA)
 [性別 男女別]



注) 数値は「男性は仕事、女性は家庭を中心にする」という考え方に「あまりそう思わない」「そう思わない」との回答者を100とした%

「固定的な男女の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」とする者の割合が 71.1%と最も高く、「男性も女性も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」が 39.9%、「女性が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」が 37.5%と続く。

性別で見ると、「女性が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」を挙げた者の割合は、

男性で高くなっている。

「自分の両親も外で働いていたから」は、全体では 18.5%だが、年代別にみると 20 代で 43.1%と突出しており、30 代でも 24.2%と平均を上回っている。若年層の家族形成をめぐる意識が、自らの生育状況に影響されていることが伺える。

その他は 11.0%で、「給料が低いため、共働きせざるをえない」(20 代 男性)、「男性の収入だけでは、生活できないから」(30 代 男性)、「リストラや病気など、常に男性が働き続けられるとは限らないから」(30 代 女性)、「家族の形態は多様化しており、均一な価値観を当てはめるのは無理がある」(40 代 男性)、「仕事と家庭を選択するかのような言い方にそもそも違和感がある」(50 代 女性)、「父親が家事、育児することは、子どもと深い絆が生まれると思う」(70 代以上 男性)などの意見がみられた。